

演題番号：C1

肺転移を伴う粘液肉腫に対するメトロノミック化学療法にプロプラノロールを追加した犬の1例

○寺内光彦¹⁾，川合 朗²⁾，岩崎遼太³⁾，森 崇⁴⁾

¹⁾ KyotoAR 動物高度医療センター，²⁾ 大山田動物病院，³⁾ 帯広畜産大学動物医療センター，⁴⁾ 岐阜大学動物病院

1. はじめに：悪性腫瘍の治療において化学療法に対する耐性は深刻な医学的問題である。非選択的 β アドレナリン受容体拮抗薬であるプロプラノロールは主に頰脈や不整脈などの心疾患の治療に用いられる薬剤であるが、人医療において様々な腫瘍に対し抗がん剤と併用することで抗腫瘍効果を増強するという証拠が蓄積されつつある。今回、肺転移を伴う粘液肉腫の犬に対する化学療法にプロプラノロールを追加し、その効果について検討した。

2. 材料および方法：シェットランドシープドッグ、避妊雌、13歳4ヵ月齢、体重11.2 kg。左会陰部皮下に複数の腫瘍性病変を認め紹介医を受診。外科切除を実施し、低悪性度の粘液肉腫と診断された。その後局所再発を疑う所見が認められたため、第60病日に集学的治療を目的に紹介来院。

3. 結果：CT検査及び病理検査より左会陰部皮下粘液肉腫の局所再発及び肺転移と診断した。その後、左会陰部皮下腫瘍の再切除及び術後放射線治療（メガボルテージ51Gy/17Fr）、ドキシソルピシンによるアジュバント化学療法を実施（25mg/m²×1回）。ドキシソルピシン投与後副作用を認めたことから第146病日にメトロノミック化学療法（クロラム

ブシル 2.3mg/m²，SID）へ変更。第187病日に肺転移の進行を認めたことからプロプラノロール（1mg/kg，BID）を追加し、第215病日に肺転移の縮小を認めた。第228病日に膀胱炎によりクロラムブシルおよびプロプラノロールを休薬し、第253病日に肺転移の進行を認めた。第260病日にクロラムブシルおよびプロプラノロールを再開し、第290病日に肺転移の再縮小を認めた。その後肺転移の進行は認められなかったが、第369病日に原発巣の進行を認め斃死した。

4. 考察：本症例はクロラムブシルによるメトロノミック化学療法中にプロプラノロールのみ追加することで肺転移の縮小が認められた。また今回処方したクロラムブシルは通常メトロノミック化学療法で使用される用量（4mg/m²，SID）より低用量にも関わらず有効性を示した。このことからプロプラノロールによる抗腫瘍効果の増強および粘液肉腫に対するクロラムブシル/プロプラノロール併用療法の有用性が示唆された。プロプラノロールは、獣医療においても様々な抗がん剤との組み合わせで臨床応用できる可能性があり、今後の検討が期待される。